

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

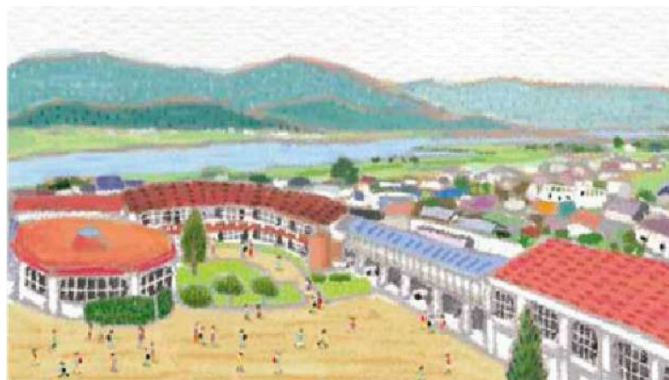


佐藤敏郎 講演会 「3.11を学びに変える」 命を語り継ぎ、災害に備える。

東日本大震災の発災から16年。石巻市立大川小学校（宮城県）は津波に襲われ、児童74名と教職員10名が犠牲となりました。学校管理下で起こった戦後最大の事故です。この出来事は今も私たちに「命を守る」行動の難しさと重みを伝えています。当時小学6年生だった次女を亡くした佐藤敏郎さんは、「3.11を学びに変える」をテーマに、全国で命についての語り継ぐ活動を続けています。

相次ぐ豪雨や巨大地震——災害はもはや、誰にとっても他人事ではありません。

本講演では、災害を「自分ごと」として備える視点とともに、元教員ならではの体験に基づく「災害時の心のケア」や心理的アプローチについて深く学びます。将来、教育・福祉・行政など、人々の暮らしや地域を支える仕事を目指す学生の皆さんをはじめ、教職員や地域の方々とともに、これからの時代を生き抜くための学びの機会になると思います。ぜひ、ご参加ください。



日付・場所・申込

日時:2026年11月25日(水) 17:15~18:45(5講時)

場所:龍谷大学(深草) Ryukoku Main Theater(対面)

および 瀬田(3-108教室・オンライン会場)

対象:本学学生、教職員、一般の皆様

定員:(深草)280名、(瀬田)80名

申込Googleフォーム→



HPから申込
できます

お問合せ



龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

学びを行動へ。行動を未来へ。

～2026年、センター設立25周年！ボランティア国際年！～

【深草】 成就館1階

【瀬田】 青志館(生協食堂)横

平日9:00(火曜は10:45)～17:00

メール ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp

講師：佐藤敏郎さんのプロフィール

1963年、宮城県石巻市生まれ。宮城教育大学卒業後、中学校の国語科教諭として宮城県内の中学校に勤務。2015年3月退職。

東日本大震災当時は、宮城県女川第一中学校（現在の女川中学校）に勤務。震災後の2011年5月、生徒たちの想いを五七五に込める俳句づくりの授業を行い、テレビ、新聞、書籍等で紹介される。2016年度の中学校1年生の教科書にも掲載されることになった。

震災後は女川中学校、矢本第二中学校で防災担当主幹教諭、宮城県の防災教育副読本の編集委員も歴任。

震災で当時大川小学校6年の次女を亡くす。

現在は、全国の学校、地方自治体、企業、団体等で講演活動を行う。2015年からは、震災当時子どもだった若者がディスカッションを行う企画「あの日を語ろう、未来を語ろう」を各地で展開。2016年「16歳の語り部」（ポプラ社）を刊行、「平成29年度 児童福祉文化賞推薦作品」を受賞。

大川伝承の会 共同代表、NPOカタリバアドバイザーの他、ラジオのパーソナリティーとしても活動。



大川小学校について

石巻市立大川小学校は、海からは3.7km内陸に位置しており、津波は到達しないと思われていました。しかし、学校のそばを流れる北上川を遡上してきた津波によって児童108名中74名・教員10名の尊い命が犠牲となりました。大津波警報が発令され町が避難を呼びかける中、50分間校庭にとどまり続けたこと、二次避難先が想定しておらずその場で議論を行ったこと、結果的に高い裏山ではなく「橋のたもと」への避難を決めたことなど、事前事後の不適切な対応を含め、多数の問題が明らかになっています。

その後、遺族・住民・行政で検討を重ねた結果、大川小学校旧校舎を全体保存することとし、震災の犠牲者の慰霊・追悼の場であるとともに、震災被害の事実、学校における事前防災と避難の重要性を伝えることを目的として、震災遺構として整備され、2021年から一般公開されています。

★本学では、2011年の6月より2019年まで毎年、石巻市でのボランティア活動を行い、2012年からは毎回、大川小学校訪ねています。コロナ禍で中断しましたが、2023年、2024年にも訪問し、2027年2月にも「災害を学ぶスタディツアー」として訪問を予定しています。



災害を学ぶスタディツアーの一環として訪問（2024年）



子ども達が避難したかった裏山から望む大川小学校（2023年）